

ふもとへ出る中間北のかたに大山あり其ふもとに有河也、
狩人の矢はぎに今宵やどりなば明日やわたらん豊河の浪

星野 豊河より東のかたにある名所なり

花園山 シカスカノワケリ 然管渡 アレ 荒野 右の分在所いまだ忘れざる也、

〔延喜式二十八〕諸國健兒略 參河國五十人中

諸國器仗中 參河國甲三領、横刀七口、弓册、張、征箭册具、胡籙册具、

〔日本書紀二十五〕大化二年三月甲子詔東國國司等曰中 有百姓臨向京日恐所乘馬疲瘦不行以

布二尋麻二束送參河尾張兩國之人雇令養飼乃入于京於還鄉日送歛一口而參河人等不能養飼

翻令疲死略 下

〔梧窓漫筆拾遺〕三河の武士

兩度天下を取りたれども此事世に知れるものもなく、まして記載せるものもなし己卯文政二年

秋予錦城 先主人吉田の松平侯の扈從として、三河に一年在留せり是れにて始めて此事を知

りたり、さて新田の庶流は、世良田徳川を始として、皆上州新田郡の在名なり、里見は義俊流なり、

山名は義範山名伊豆守 流なり、是は新田正統大炊助義兼の兄なり、故に遠く隔たりて、今の上州高崎

の南に山名あり、北は里見上中下 あり、其他は義貞舉兵の時、天狗山伏の催促せる、三國峠を越て

越後の羽川鳥山等なり、然るに下野足利郡に足利と云ふ處はあれども、足利庶流の人は、村名一

もなし、少き時天明七丁未 に、毛の野に浪遊して、此事を不審に思ひたれども、誰ありて此等の事

を辨知せる人もなし、三河に在留して、其輿圖を披見すれば、足利庶流第一たる、仁木細川は額田

郡、矢矧川の東に並びたる村名なり、吉良、一色、今川、荒川、戸ヶ崎まで幡頭郡の村名なり、されば鎌

倉の初に、足利庶流の人々を、此國に封じたり、細川、一色の人々、又己の次男三男を分封せし地と